

令和7年度第2回在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議報告書

1. 開催日時 令和7年12月11日（木） 午後2時から3時30分まで
2. 開催場所 市役所東庁舎1階 会議室101
3. 出席者 森谷委員、筒井委員、近藤委員、土橋委員、平澤委員、野田委員、廣瀬委員、日野口委員、福岡委員、小沢委員、山崎委員
事務局 福祉部 金井部長
高齢者福祉課 奥村課長、安岡係長、斎藤、椿本
健康課 竹内課長、戸田課長補佐
西白井駅前地域包括支援センター 独古、白井中央地域包括支援センター 村上
4. 傍聴者 0名
5. 次第

令和7年度第2回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議

内容

- (1) 在宅医療・介護連携推進事業及び認知症施策上半期実施報告
- (2) 認知症初期集中支援チーム上半期活動実績報告
- (3) (仮) 白井市認知症施策推進計画について
- (4) 意見交換

「認知症本人・家族の声を聴くための取組について」

6. 内容 以下の概要のとおり

事務局	○第2回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会 会長あいさつ
会長	○内容1 在宅医療・介護連携推進事業及び施策の上半期実施報告についてとする。事務局より説明を求める。 (事務局より、全体説明資料に関する取り組みについて説明)
会長	報告内容について意見・質問はあるか。 多職種連携研修会の入退院時連携研修会に参加した日野口委員より意見・感想を伺いたい。
委員	グループディスカッションを同じ職種同士で行ったことにより、他事業所の取組や課題を共有することができ参考になった。千葉県の地域生活連携シートも、何度も活用促進をされているところなので、再度確認しながら今後の連携でうまく活用していけると良いと思う。
会長	介護施設での救急時連携ワーキングに参加した山崎委員より意見・感想を伺いたい。
委員	救急医療情報シートと介護施設用シートの認知度、各施設での講習会実施は進んでいると感じている。救急時の対応は、救急医療情報キット導入時よりなかなか改善が進まなかつたりご家族との連絡がつかない等は以前からあるので、この辺りを改善できればもっと良くなっていくのかなと思う。
会長	ご家族の連絡先は、施設でも把握はされているのか。

委員会長	把握しており、記載のある連絡先に連絡するようにしている。 認知症見守り訓練について、昨年度参加している福岡委員と、認知症の方を保護することもある立場の小沢委員より意見を伺いたい。
委員	昨年の訓練では、自身が認知症役となった。ほかの認知症役は、介護の専門職の方が多かったので再現度が高く、中には声をかけても離れようとしてしまったり声をかけていいかと考えさせられたりするパターンもあり難しさもあったが、今後も年に一度は開催していくと良いと思っている。ただ参加者のほとんどが高齢者なので、もっと若者にも参加してもらえると良い。
委員	地域で徘徊されている方がいたときに声かけができる、というところは見守る中ではとても重要なことだと思う。地域で色々な方が気にしながら見守りを行っていけると良いと思う。
委員	こういった訓練のようなものや認知症について知るための内容を病院の専門職が受けたい場合、それは可能なのか。
事務局	市で認知症センター養成講座を実施しており、学校や民間企業等に出前講座として出向いている。認知症についてや対応のポイント等説明しているため、希望があればご連絡をお願いしたい。
会長	認知症見守り訓練の認知症役はどのように決めたのか。
事務局	事前の打合せで認知症役の希望者を募ったことと、話し合いで決定した。今回はまちづくり協議会との共催実施であり、6役中半数が協議会委員（市民の方）、半数が介護施設等の専門職が担当した。
会長	消防署との連携について、参加された山崎委員より意見をお願いしたい。
委員	救急医療情報キットについては、更新されていない状況が課題になっているが普及がかなり進んできているため、今後も継続していくと良い。また、高齢者の救急搬送状況について、ある事例についてこの場で共有させていただきたいと思う。明け方に1時間ほど同じ場所に立っている高齢者について通報があり警察のほうで保護していた。持ち物の中に身分証明書があったためご家族に連絡はとれたが、低体温症が進行していたため救急搬送となつたケースがあった。
会長	○内容2 認知症初期集中支援チーム上半期活動実績報告についてとする。事務局より説明を求める。
事務局	（事務局より、資料1に関する取組と今年度支援したケース概要について説明）
会長	今年度支援したケースの5事例目の方について、現在の様子を伺いたい。
事務局	サービス導入後も拒否をされることがあったが、その都度ご家族を含めた関係者の方と検討を重ね、徐々に受け入れてもらえるようになった。一方で、物盗られ妄想や近隣住民とのトラブルがあり訪問診療のほうで治療継続している。チームとしての介入は終了しているが、引き続きケアマネージャーや地域包括支援センターなど関係者間で情報共有し対応していきたい。
会長	○内容3 （仮）白井市認知症施策推進計画についてとする。事務局より説明を求める。
事務局	（事務局より、全体説明資料及び資料2について説明） 質疑なし

事務局	○内容4 意見交換 「認知症本人・家族の声を聴くための取組について」 認知症本人の思いをもとに住みやすい暮らしを考えていくために、市の既存事業での取組は充実を図りつつ、事業につながっていない方の思いや声を聴いていくための支援や取組について、ご意見をいただきたいと思う。
委員	取組という前に、まず声を聴くときに周囲や家族との関係や、ケアマネージャーなどの支援者が大変な思いをしていないかなどによって対応は違ってくると思う。周囲からの圧力やハラスメント等もあり、そういう壁を取り払わないと声を聴いていくのは難しく、まず困った際の相談先の確保や支援の体制づくりをしていかないといけないのではないか。
委員	本人と家族の思いがかけ離れている場合や、支援者側に委ねられたりするようなときに、どちらを優先させたら良いのか困る時がある。ケアマネージャーさんなど支援者の方同士で対応の仕方について共有して支援できると良いのかなと思う。
委員	本人ミーティングを実施しているとのことだが、そこに参加する方は認知症と自覚をしているのか。
事務局 委員	現在実施をしている場所における参加者の方については、認識がある方である。ご家族がおっしゃっていることは自身の感想であることも多く、ご本人の意思や気持ちはしっかりとあるのでその部分はどのように把握していくべきか難しい。本人はきっとこうするはず、という部分もあるかと思うので、ご家族よりそういういった声も聴いていけたら良いのかと思う。
委員	民生委員、地区社協推進員として長年活動しているが、時折サロン等に認知症状のある方が参加される。ゲーム等のルールがなかなか覚えられず他の参加者とうまくやりとりが出来なかつたり、認知症本人だけ参加し送迎の家族は一旦帰宅したため本人の不安が強くなるなど、様々なケースがある。その都度本人の思いを聴いたり対応しているが、今後そういう方をどのように受け入れ対応していくべきか難しいと感じことがある。地域の実情やボランティアがこういった対応をしていることを、関係者の方にも知っておいていただきたいと思う。
委員	普段、認知症の方を保護することもあり同じ方が複数回保護となることもある。介護サービスや支援が行き届いている場合は良いが、認知症初期の方は本人・家族ともに受け入れられないことが多く、保護をした後ご家族にお願いするがまたすぐに保護ということもあるので、市とも情報共有させていただいているがどのようにケアをしていくべきかというのは日頃感じている。
委員	先程ハラスメントの意見や地域の実状も意見が出ていたが、こういった場所で共有できれば多職種の方の仕事内容や認知症の方の状況に関して共有できると思う。
委員	ご家族の思いが強かつたり、本人の認知症状が進んでいたりすると、本人の意向は無視されてしまう場合が多いように思う。仕方ない、で終わってしまったりするので関係者間で困難ケースの対応を一緒に考え情報共有できる機会がつくれると良い。居宅支援事業所では重度の認知症支援が多く、本人が認知症であるこ

	とを忘れてしまっていたり、家族は周囲にいかに迷惑をかけずに過ごしていくかを考えているケースが多い。そのため社会の認知症に対する理解を深めすることが大切だと思うので、家族をはじめ地域その他にもっと知っていただけるよう講座などを実施していけると良いのではないか。
委員	リハビリという立場で考えてみると、担当したときにまずご家族と話す時間を設けたことはあった。ただどのケースもそのようにしたら良い、というのはなく医師、訪問看護師、ケアマネージャーさんなどと共有しながら支援をしていかないといけない。どこをゴールにするかなど、普段の業務を振り返っても難しいと感じる部分がありリハビリの中で出来ることは限られるが、色々な意見を聴いて取り組んでいきたい。
委員	まず、本人またはご家族との関係性が構築されていないと声を聴いていくというのは難しいと思う。本人、家族、市がつながれる場、例えば着物のイベント等で、お祖母ちゃんから孫に着付けを教えるなど日常生活に繋がる内容だと関係が築きやすいのでは。そこから徐々に意見を拾い上げたり困った時の相談先を知ってもらうきっかけにもなるのではないか。
委員	認知症に関する取り組みは本当に重要で、現在薬物療法で進行を抑えたり地域での見守りといったところがメインになってくると思う。本人の不安やご家族の心配に対して、相談先や対処法などの情報発信があると良い。本人の趣味の有無は大事で、その趣味や他人との交流が認知症の進行に関係するのでそういった情報の提供や、目が見えにくい・耳が聞こえにくい等の場合も周囲の気遣いにより助かることもあると思うので、こういった様々な取組を周知していけると良い。
会長	本人への聞き取りとなると、本人がどう思うかやご家族の思いもあり個人的な話になつたりして難しい部分もあると思う。ニーズを直接知っている人は、ケアマネージャーやヘルパーなどよく関わりのある支援者や自治会などと思われ、色々な認知症の方と関わっている分広い視野での意見もあるのではないか。そういうところからの意見聴取をしていくのも良いのでは。
事務局	本人と話す内容や、地域の意識を変えることの難しさなどを実感した。本日の意見交換の内容は、今後の市の取組及び計画策定に活かしていきたい。
事務局	次年度以降の協議会について。今年度で、現委員の任期が終了となるため3年間のお礼をさせていただきたい。次年度から会議は年2回となる。
会長	以上で、本日の会議を終了する。